

社会的レリバンスの高い教育課程設計と 評価のあり方について

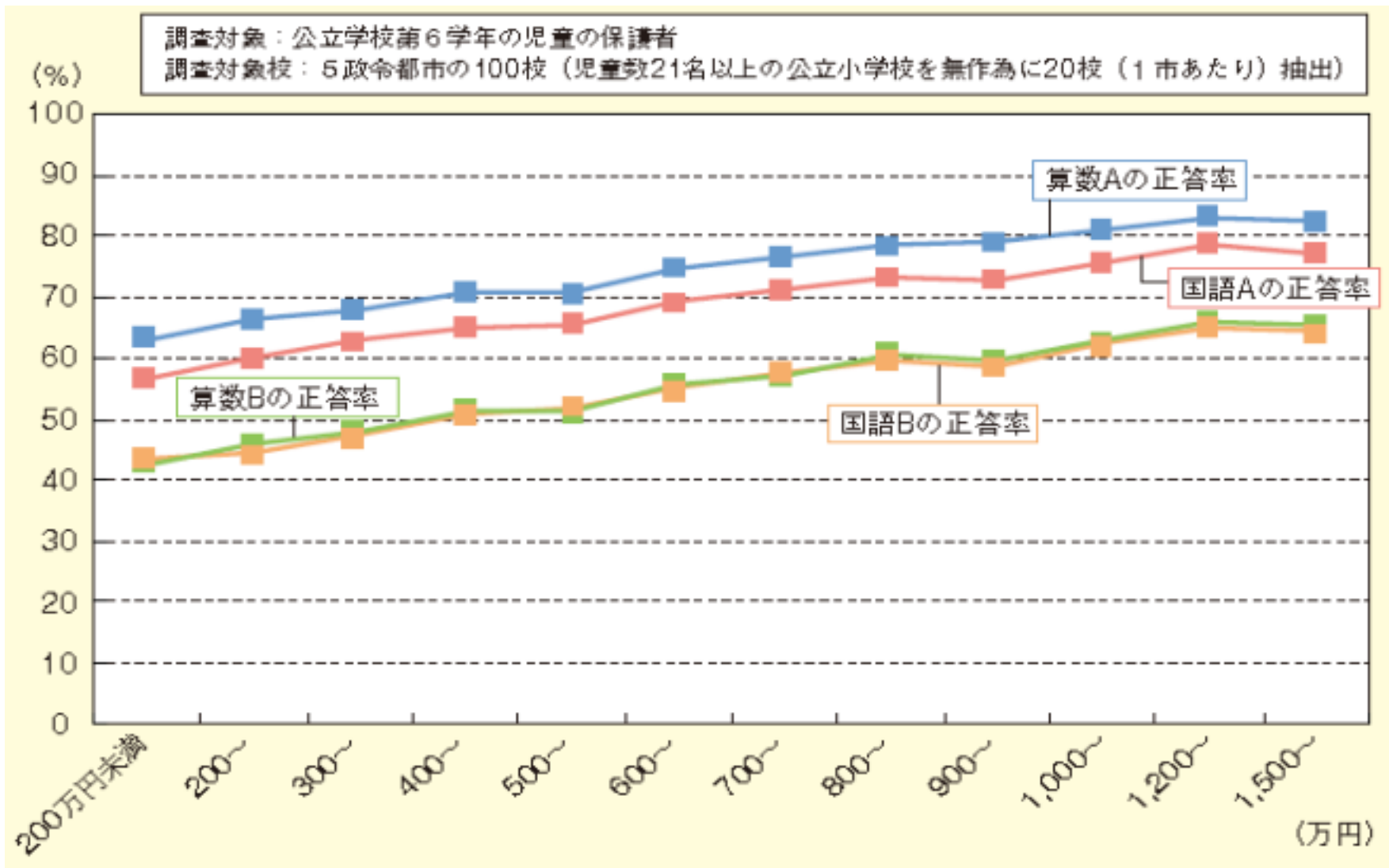
本田由紀（東京大学大学院教育学研究科教授）

日本の教育の問題点

日本の教育の現状

- ▶ 義務教育段階から学力保障が形骸化、家庭が持つ諸資源の多寡が子世代に直接的に影響、公立中高一貫制や高校学区広域化・撤廃などの制度改変、「コミュニケーション能力」等に基づく生徒間の「カースト化」
- 「学力」と「生きる力」の両面で教育の格差化がいつそう進行
- ▶ 社会生活や将来の仕事に対する教育のレリバンスの希薄さ
 - ・抽象的な記号操作能力に関する教育がいまだ支配的
 - ・職業教育機関の量的少なさ、地位の低さ
 - ・精神主義的なキャリア教育はむしろ不安を拡大
- ▶ 全体として、「形式的平等」のもとに「学力」と「生きる力」の「垂直的多様化」が進行しており、すべての者に「居場所と出番」を確保する「水平的多様化」にはなっていない。

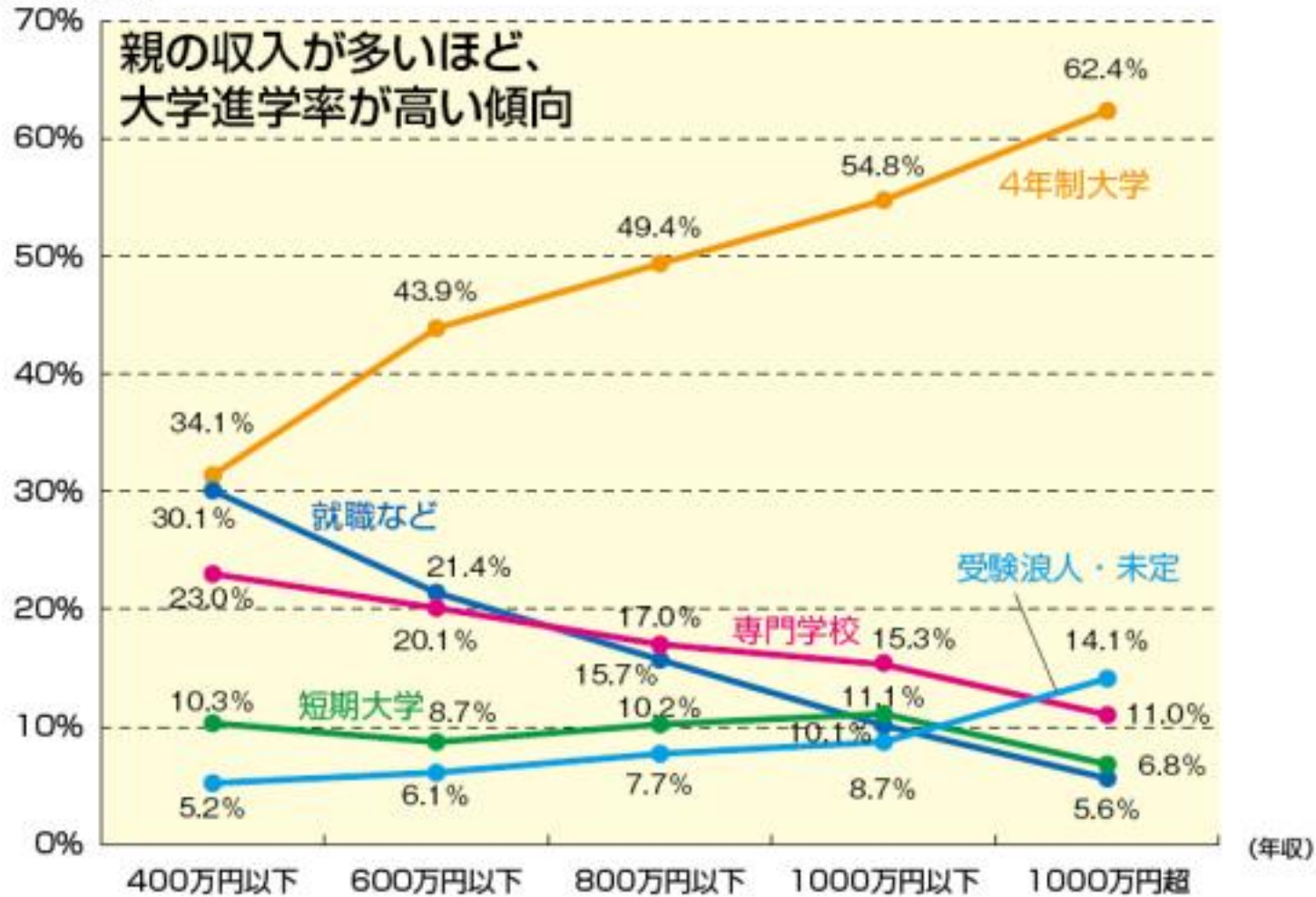
家庭の経済状況と子どもの学力



出典：平成21年度文部科学白書

【図4】 親の収入と高校卒業後の進路格差

(進路・進学割合)

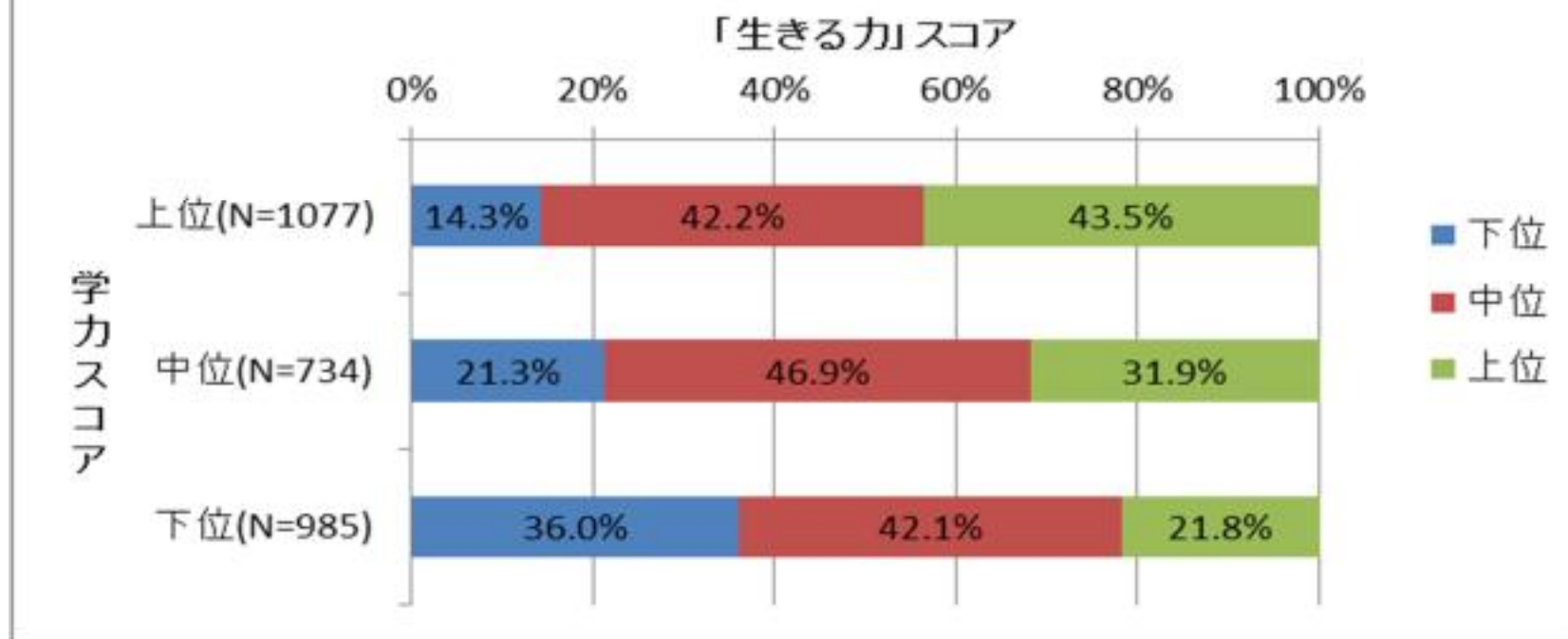


※東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター「高校生の進路追跡調査 第1次報告書」(2007年9月)より(調査年は2005年)
出所：経済財政諮問会議資料(2009.5.19.)

出典 阿部彩「子どもの貧困対策としての教育」『相談室だより』2009

学力と「生きる力」の相関

図1-3 学力スコアと「生きる力」スコア
の関係



調査対象：神奈川県内の公立中学校2年生

出典：本田由紀『学校の「空気」』岩波書店、2011年

クラス内での「地位」と学校生活

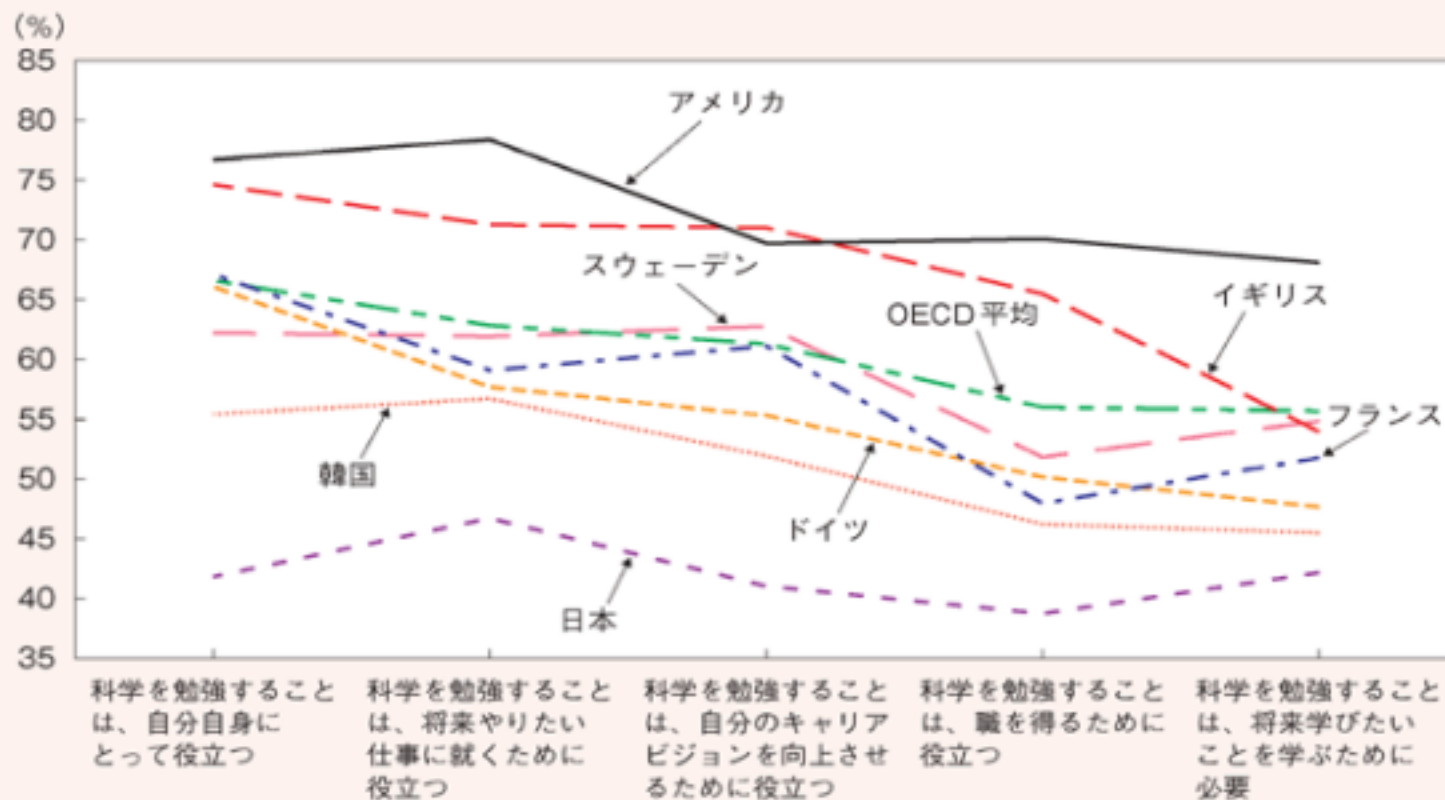
| | 男子 | | | 女子 | | |
|-------------------|------------|----------|-----------|------------|----------|-----------|
| | クラスの友だちに満足 | 学校は楽しい | 日常生活全般が充実 | クラスの友だちに満足 | 学校は楽しい | 日常生活全般が充実 |
| 学カスコア | 0.053+ | 0.028 | 0.043 | 0.017 | 0.015 | 0.080** |
| 「生きる力」スコア | 0.069* | 0.071** | 0.090** | 0.0478+ | 0.010 | 0.078** |
| 経済的資源 | -0.016 | -0.008 | 0.015 | 0.027 | 0.004 | -0.020 |
| 文化的資源 | -0.026 | -0.017 | 0.004 | -0.002 | -0.019 | 0.007 |
| 一緒に行動する友だちは決まっている | 0.085** | 0.063** | 0.053* | 0.072** | 0.042+ | -0.005 |
| クラス内友人数 | 0.354*** | 0.127*** | 0.056* | 0.263*** | 0.135*** | 0.045+ |
| 運動部所属 | -0.009 | 0.128*** | 0.047 | -0.066 | 0.028 | 0.034 |
| 文化部所属 | -0.023 | 0.077* | 0.011 | -0.075+ | -0.008 | 0.039 |
| クラス内「地位」高位 | 0.035 | 0.072** | -0.006 | -0.011 | 0.049* | -0.016 |
| クラス内「地位」低位 | -0.132*** | -0.057* | -0.007 | -0.093*** | -0.042+ | -0.044+ |
| クラス内「地位」いじられ | -0.039 | 0.018 | -0.001 | -0.038 | 0.018 | -0.007 |
| キャラを演じる | 0.027 | 0.029 | -0.024 | -0.041 | -0.014 | -0.070** |
| 友だちも自分をわかっていない | -0.067* | -0.069** | -0.081** | -0.187*** | -0.075** | -0.042 |
| どこかにほんとうの自分がある | -0.049+ | 0.015 | -0.015 | -0.014 | -0.060** | -0.050* |
| 一人称「伝統型」 | | | | 0.096* | 0.061+ | 0.020 |
| 一人称「ウチ」 | | | | 0.200*** | 0.110** | 0.012 |
| 一人称「愛称型」 | | | | 0.108** | 0.041 | 0.013 |
| クラスの友だちに満足 | | 0.416*** | 0.132*** | | 0.476*** | 0.117*** |
| 学校生活は楽しい | | | 0.348*** | | | 0.408*** |
| 調整済みR2乗 | 0.186 | 0.315 | 0.256 | 0.177 | 0.377 | 0.319 |
| 有意確率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| N | 1361 | 1360 | 1354 | 1351 | 1350 | 1335 |

調査対象：神奈川県内の公立中学校2年生

▶ 出典：本田由紀『学校の「空気」』岩波書店、2011年

教育内容のレリバンスの希薄さ

第2－(1)－25図 学習と仕事を関連づけて考える者の割合

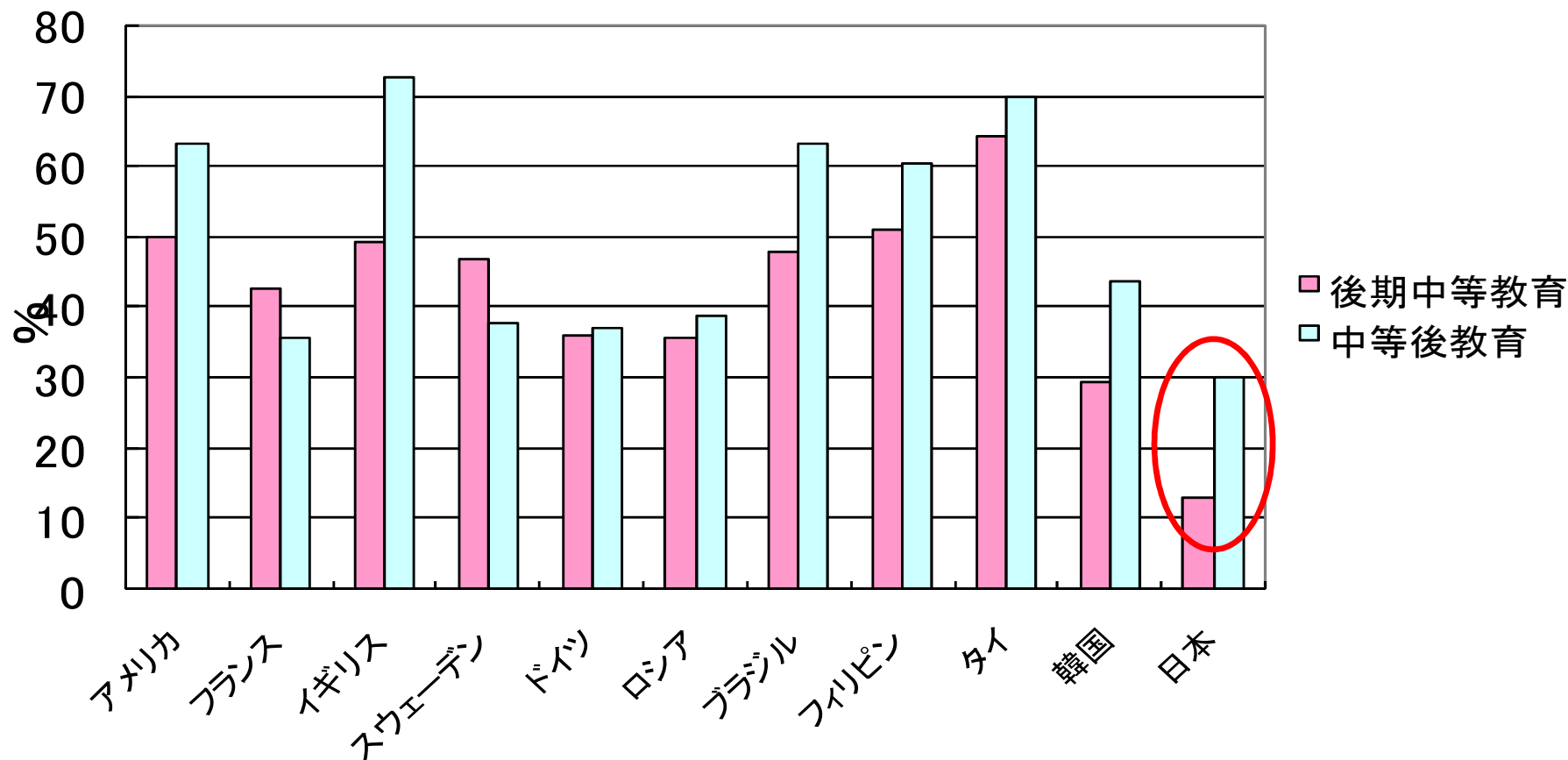


資料出所 OECD [PISA2006]

(注) 数値は、各項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」を合計した割合。

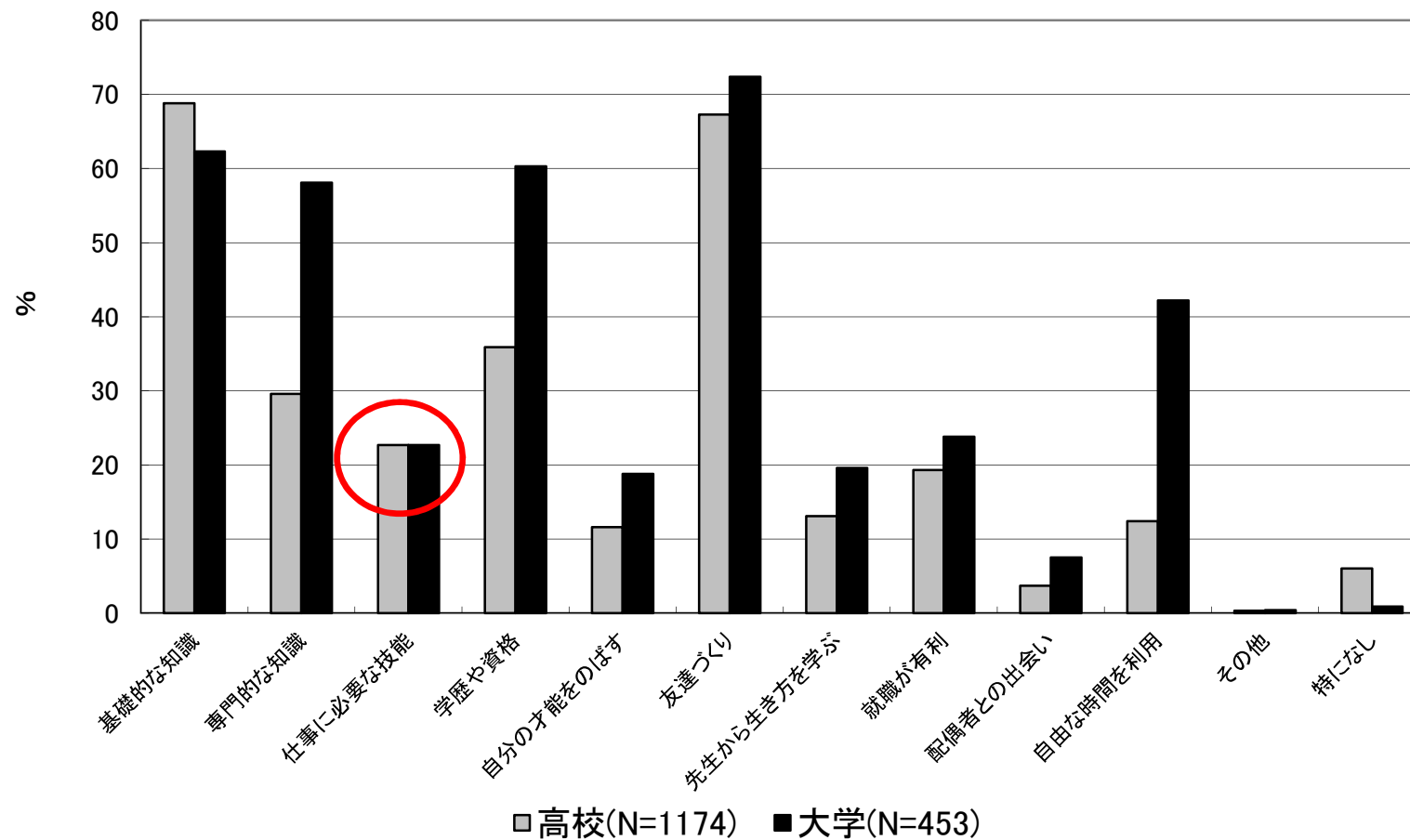
日本の教育の職業的レリバンスの低さ

学校教育の意義として「職業的技能の習得」を挙げた比率
(国別・最終学歴別、「第6回世界青年意識調査」)



高校でも大学でも低い職業的レリバンス

図18 教育の意義(高校／大学別, M.A.)



▶ 本田由紀「高校教育・大学教育のレリバンス」谷岡一郎他編『日本人の意識と行動』東京大学出版会、2008年

「キャリア教育」が掲げる能力

○基礎的・汎用的能力についての提言の例

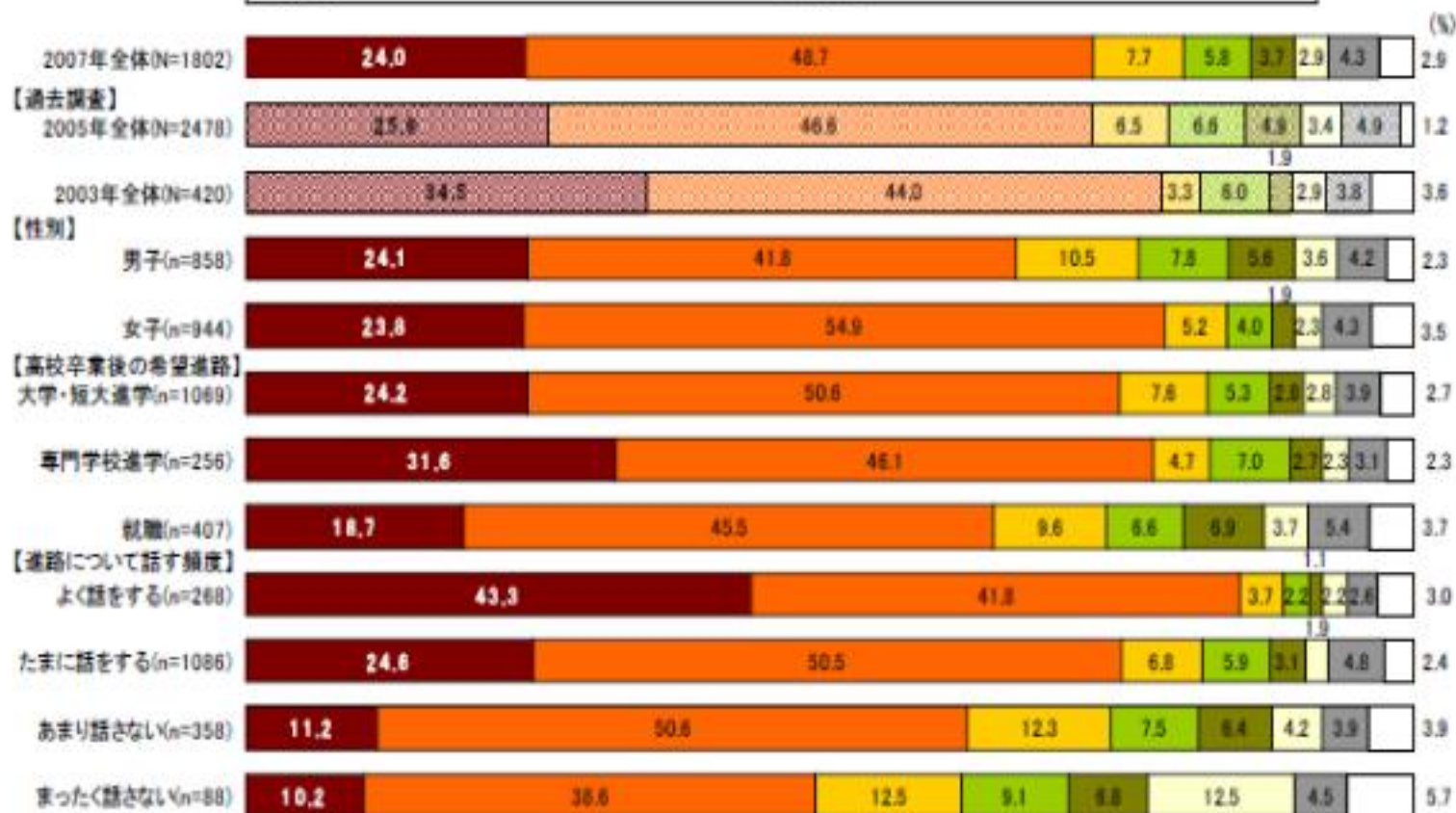
| | 生きる力 | 学士力 | キー・コンピテンシー (主要能力) | 社会人基礎力 | 就職基礎能力 | エンプロイ アビリティ |
|----|--|---|--|---|---|---|
| 趣旨 | <p>「変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに身に付けさせたい力」として、中央教育審議会が提言。 平成8年7月「21世紀を展望した我が国教育の在り方について」など累次の答申</p> | <p>「各専攻分野を通じて培う、学士課程共通の学習成果」として、中央教育審議会が提言。 平成20年12月答申「学士課程教育の構築に向けて」</p> | <p>「単なる知識や技能だけでなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースとして活用して、特定の文脈の中で複雑な課題に対応することができる力」として、OECDが2000年のPISA調査の開始に当たり定義。</p> | <p>「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」として、経済産業省の研究會が提言。 平成18年1月「社会人基礎力に関する研究會-中間取りまとめ-」</p> | <p>「企業が採用に当たって重視し、基礎的なものとして比較的短期間の訓練により向上可能な能力」として、厚生労働省が提言。 平成16年1月「若年者の就職能力に関する実態調査」</p> | <p>「労働市場価値を含んだ就業能力、即ち、労働市場における能力評価、能力開発目標の基準となる実践的な就業能力」として、厚生労働省の研究會が提言。 平成13年7月「エンプロイアビリティの判断基準等に関する調査研究報告書」</p> |
| 内容 | <p>○<u>豊かな学力</u> 知識・技能に加え、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力</p> <p>○<u>豊かな人間性</u> 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など</p> <p>○<u>たくましく生きるための健康や体力</u></p> | <p>○<u>知識・理解</u> ・他文化・異文化に関する知識の理解 ・人類の文化、社会と自然に関する知識の理解</p> <p>○<u>汎用的技能</u> ・コミュニケーションスキル ・数量的スキル ・情報リテラシー ・論理的思考力 ・問題解決力</p> <p>○<u>態度・志向性</u> ・自己管理能力 ・チームワーク、リーダーシップ ・倫理観 ・市民としての社会的責任 ・生涯学習力</p> <p>○<u>総合的な学習経験と創造的思惟力</u></p> | <p>○<u>社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する力</u> ・言語、シンボル、テキストを活用する能力 ・知識や情報を活用する能力 ・テクノロジーを活用する能力</p> <p>○<u>多様な社会グループにおける人間関係形成能力</u> ・他人と円滑に人間関係を構築する能力 ・協調する能力 ・利害の対立を調し、解決する能力</p> <p>○<u>自立的に行動する能力</u> ・大局的に行動する能力 ・人生設計や個人の計画を作り実行する能力 ・権利、利害、責任、境界、ニーズを表明する能力</p> | <p>○<u>前に読み出す力(アウトシヨウ)</u> ・主体性 ・働きかけ力 ・実行力</p> <p>○<u>考え抜く力(シンキング)</u> ・課題発見力 ・計画力 ・想像力</p> <p>○<u>チームで働く力(チームワーク)</u> ・発信力 ・傾聴力 ・柔軟性 ・状況把握力 ・規律性 ・ストレスコントロール力</p> | <p>○<u>コミュニケーション能力</u> ・意思疎通 ・協調性 ・自己表現能力</p> <p>○<u>職業人意識</u> ・責任感 ・向上心・探求心 ・職業意識・勤労観</p> <p>○<u>基礎学力</u> ・読み書き ・計算・計数・数学的思考力 ・社会人常識</p> <p>○<u>ビジネスマナー</u> ・基本的なマナー</p> <p>○<u>資格取得</u> ・情報技術関係 ・経理・財務関係 ・語学力関係</p> | <p>○<u>労働者個人の能力</u> ・職務遂行に必要な特定の知識・技能などの顕在的なもの ・協調性、積極性等、職務遂行に当たり、各個人が保持している思考特性や行動特性に係るもの ・勤機、人柄、性格、信念、価値観等の潜在的な個人的属性に関するもの</p> <p>○<u>企業の求める変化に対応する能力</u></p> <p>○<u>換新的な市場価値を含んだ職業能力</u></p> |



高校生の進路不安

Q. 進路を考える時、高校生はどんな気持ちになるか

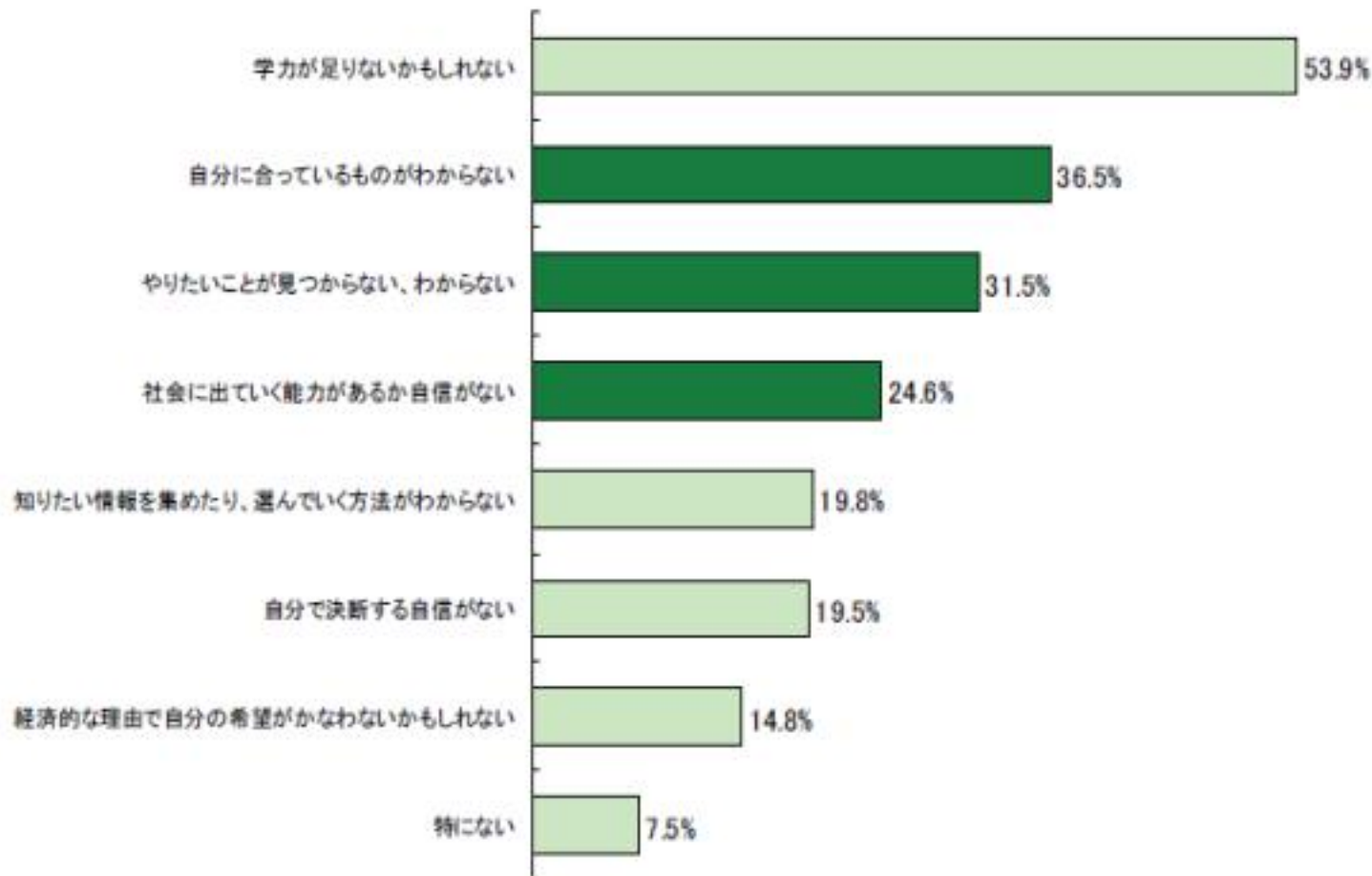
■高校生



データ出所: リクルート「第3回 高校生と保護者の進路に関する意識調査」(2007年)

進路選択に関する高校生の気掛かり

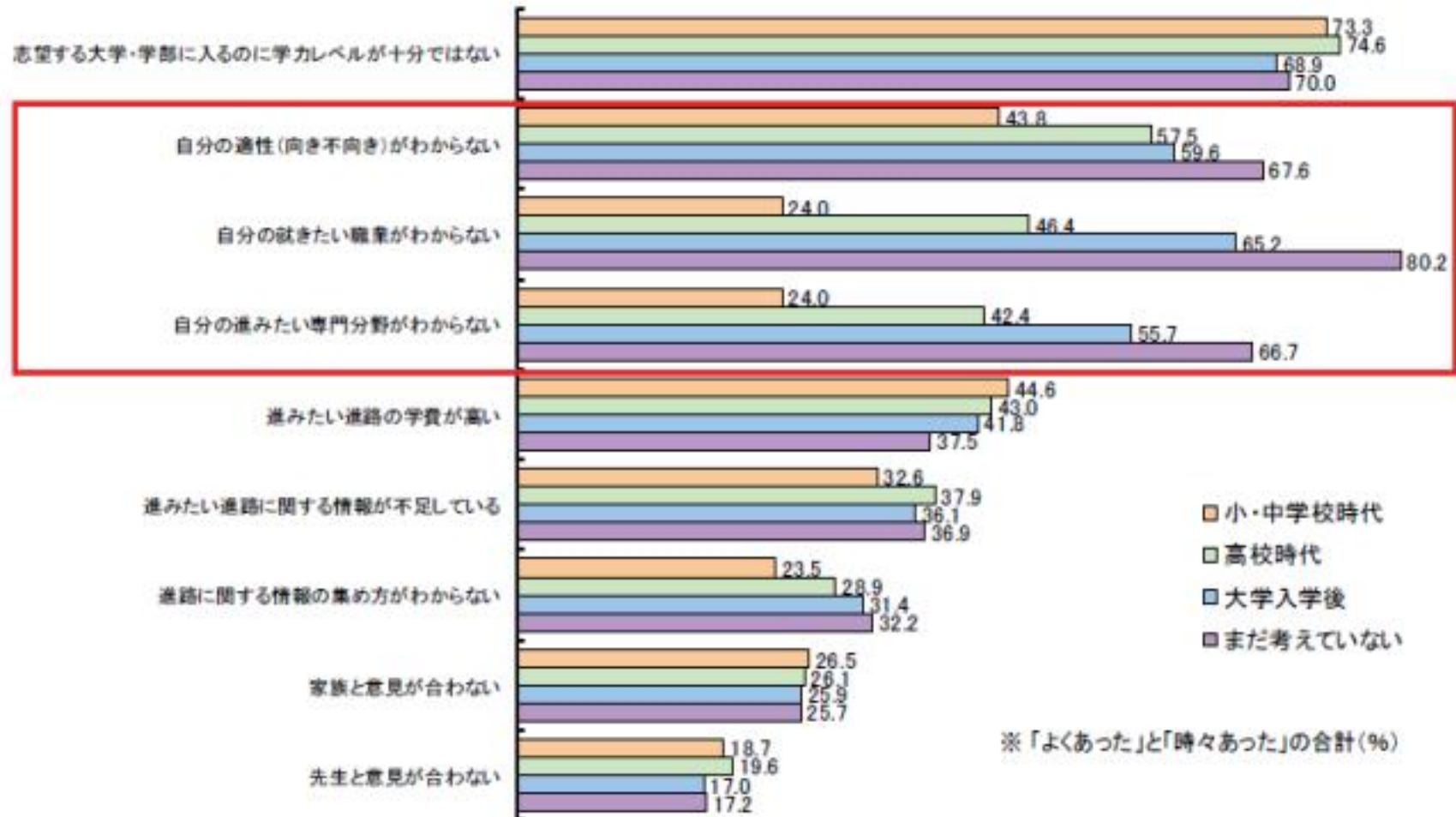
学力に対する不安に次いで、「自分に合っているものがわからない」「やりたいことが見つからない、わからない」「社会に出ていく能力があるか自信がない」が気掛かり



資料：(社)全国高等学校PTA連合会・(株)リクルート「高校生と保護者の進路に関する意識調査」(2009)

進路を選択するときの悩み(職業を意識した時期別)

大学生は、高等学校時代に、学力のほか、自分の適性や就きたい職業、進みたい専門分野について悩んでいたと回答。こうした傾向は、職業を意識した時期が遅いほど顕著



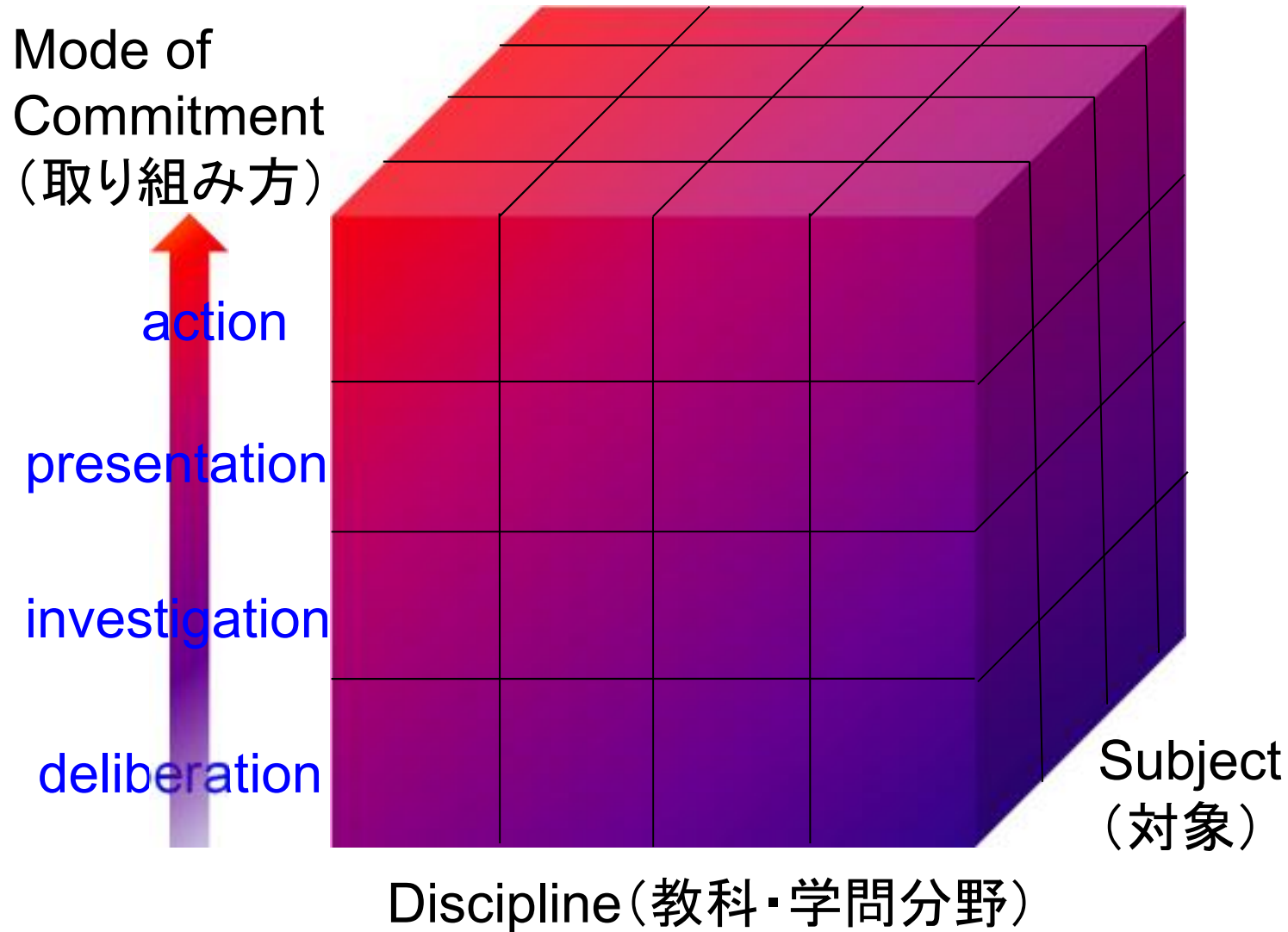
資料: Benesse教育研究開発センター「平成17年度 経済産業省委託調査 進路選択に関する掘り返り調査 -大学生を対象として-

教育課程設計と学習成果の評価

基本的考え方

- ▶ 制度化された教育に可能な範囲で改善を考える。
- ▶ すなわち、過剰に理想的かつ人格に踏み込む教育目標を持ち込むことを抑制し、あくまで教育課程の設計を主軸とする教育改革が必要。
- ▶ 教育課程の設計においては、必要な知識・スキルの習得を踏まえ、学習者の主体的な行動と思考を喚起し、社会生活につなげる段階性が求められる。
- ▶ その段階性に関して、初等教育では基盤的部分の比重が大きくなるが、中等教育・高等教育に進むにつれて、主体的な行動・思考や社会生活との結び付けの比重が大きくなる。
- ▶ 学習成果の評価は、教育課程と密接に関わる範囲でのみなされることが必要。人格面(意欲・態度を含む)については、個人に対する評価ではなく、教育課程の有効性の検証にのみ用いるべき。

教育課程の構造化



- ※各授業が1つないし複数個のキューブに該当する
- ※特に垂直軸の広がりが社会的レリバンスに資する

教育の質保証の二側面

▶ 教育課程の設計

教育目標の明確化→それに即した3軸の射程の決定→立体を個々の授業に切り分け配列

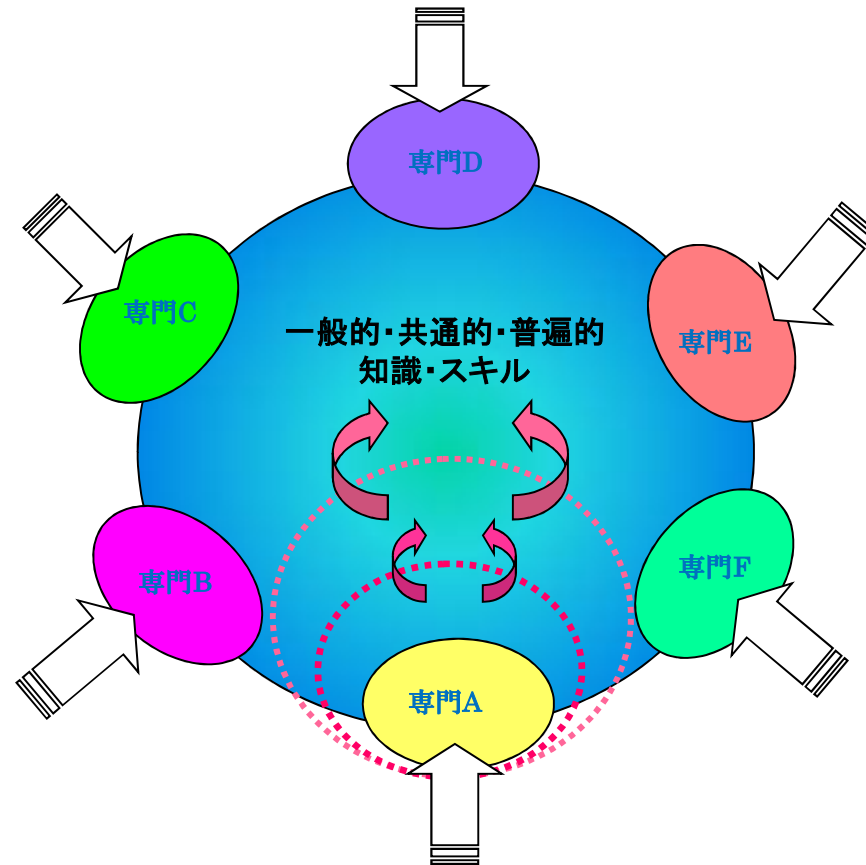
▶ 学習成果の評価

- deliberation: 知識・スキルの習得
- investigation: 調査・実験を遂行し結果を得る
- presentation: 成果物・論文・発表
- action: 実社会での取り組み・効果検証

▶ (確認された学習成果を教育課程設計にフィードバック)

「柔軟な専門性」という方向性

flexpecialityの 模式図



こうした「柔軟な専門性」が形成され尊重される制度的環境を教育や仕事の世界で整備してゆく必要。

職業的レリバンスの高い教育に 関する実証研究の中間報告

研究の目的

- ▶ 「職業的レリバンスのある教育」を教育課程として具体化すること。
- ▶ すなわち、仕事の世界の現実を知り、それに対して〈適応〉と〈抵抗〉の両面から対処できる知識とスキルを身に着けることに資する教育内容をデザインし、その有効性を検証すること。
- ▶ 〈適応〉: 仕事を遂行するために必要な分野別の知識とスキル、経済・社会全体の中での各分野の位置づけや変化に関する俯瞰的・現実的な認識
- ▶ 〈抵抗〉: 不当な働かせ方や労働条件、非効率的・不合理な仕事の進め方を是正してゆくための知識とスキル

「職業的レリバンスのある教育」の近接概念

- ▶ 「キャリア教育」:「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度」、その中心となる「基礎的・汎用的能力」を育成するもの
- ▶ 「職業教育」:「一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度」を育成するもの

(以上は中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」2011年1月より)

- ▶ 科目「産業社会と人間」:「ア 社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成
イ 我が国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化についての考察
ウ 自己の将来の生き方や進路についての考察
及び各教科・科目の履修計画の作成」に重点を置く学校設定科目

(以上は文部科学省『高等学校学習指導要録解説 総則編』2009年7月より)

高校での「キャリア教育」の現状

- ▶ 《高等学校におけるキャリア教育に関するアンケート》
調査対象：全国の高等学校 5,126校
調査方法・期間：郵送によるアンケート質問紙 2012年7月23日～8月31日
回答校数：1,049校
調査機関：株式会社ディスコ 教育広報カンパニー 企画開発グループ
- ▶ 「過去実施したキャリア教育の具体的な実施内容は、回答者全体では「大学・短大による出前授業」(66.7%)、次いで「自校のOB・OGによる講演会」64.3%の回答が多く、現在実施している内容も「大学・短大による出前授業」(61.9%)、「自校のOB・OGによる講演会」(60.8%)と、ほぼ同じ結果になっています。
地域別で見ると、差が最も大きく開いたのが「インターンシップ」で、最も高い九州・沖縄(67.9%)に対して、関東(37.6%)が最も低く、約30ポイントの差があります。」

「職業的レリバンスのある教育」の特徴

- ▶ <抵抗>を不可欠の要素としていること。
- ▶ <適応>として仕事分野別の知識やスキルを重視しており、かつ特定の職業に就くためだけではなく、経済・社会全体の中での各分野の位置づけに関する俯瞰的・現実的な認識の形成を目的としていること。
- ▶ これら<抵抗>と<適応>に関する具体的な知識やスキルの習得を通じて、間接的・副次的に「基礎的・汎用的能力」が形成されることを意図していること。

近年の政策の動き

- ▶ 「子どもたちが、社会の「本物」、“働くことの喜び”、“世の中の実態や厳しさ”などを知った上で、将来の生き方や進路に夢や希望を持ち、その実現を目指して、学校での生活や学びに意欲的に取り組むようになること、これがキャリア教育を行うことの意義であるといっても過言ではない。」(文部科学省「キャリア教育における外部人材活用等に関する調査研究協力者会議」報告書『学校が社会と協働して一日も早くすべての児童生徒に充実したキャリア教育を行うために』2011年12月)
- ▶ 「若者が安心・安全で健康に働き続けることができるよう、過重労働による健康障害の防止のための総合対策を推進することにより、職場環境の改善を図る。また、法違反やトラブルに対応する労働局の総合労働相談コーナーの体制の充実や、労働法制の基礎知識の普及を促進する。」(雇用戦略対話『若者雇用戦略』2012年6月)

生徒への説明文

「仕事のリアル」

担当：本田由紀先生

「仕事のリアル(現実)」について学び、みなさんが将来、仕事をしていく上で必要な知識の一端を身につけることを目的とします。今回は、2日間、それぞれ一つずつ「労働法」と「金融」というテーマを取り上げることにしました。テーマが2つなので、講師も形式も2日間異なっています。

「労働法」の授業では、職場で不当な働かされ方をした際に、どうすればちゃんと対応できるかを学んでもらいます。また、「金融」の授業では、数多くの仕事の中の一部ではありますが重要な意味を持つ金融という仕事の中身を、知ってもらうことを目的としています。これらのような「仕事のリアル」を知ることが、みなさんが社会に出ていく準備につながってくれたら、と願っています。

実験授業と事前・事後調査の日程

| | 事前調査 | 実験授業 | | 事後調査 |
|-----|-------|-------|-------|--------|
| | | 労働法 | 金融 | |
| 第1回 | 2月20日 | 3月12日 | 3月13日 | 各授業の直後 |
| 第2回 | 7月2日 | 7月5日 | 7月4日 | 各授業の直後 |

※1:事前調査は4年生全員、事後調査は実験授業対象者(それぞれ約1クラス)のみ。

※2:事後調査は事前調査と同じ質問項目によるアンケートと、授業評価アンケートの2種類。

※3:授業はそれぞれについて50分×連続2コマの計100分。

※4:授業担当者:労働法—川村遼平氏(NPO法人POSSE)、金融—古徳佳枝

▶ 27 氏(金融教育コンサルタント)

授業内容の設計の際に配慮した点

- ▶ ニュース番組のビデオやインターネットサイトなどを活用し、「リアル」な仕事の世界を伝えること。
- ▶ 情報を集約したテキストを併用するが、テキストの解説に終始せず、グループディスカッションやその結果の発表、ロールプレイなどを盛り込み**双方向的**な授業にすること。
- ▶ 細かい項目を覚えるよりも、基本的な「**考え方**」を厳選して確実に伝えること。

有効性の検証

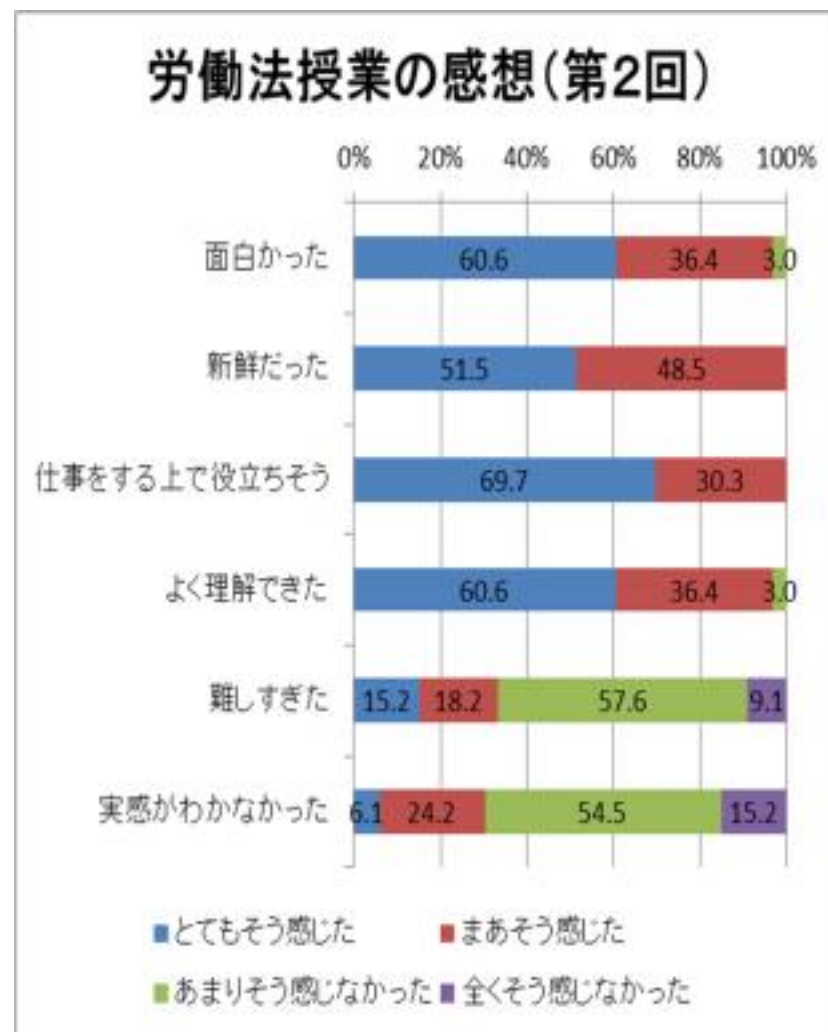
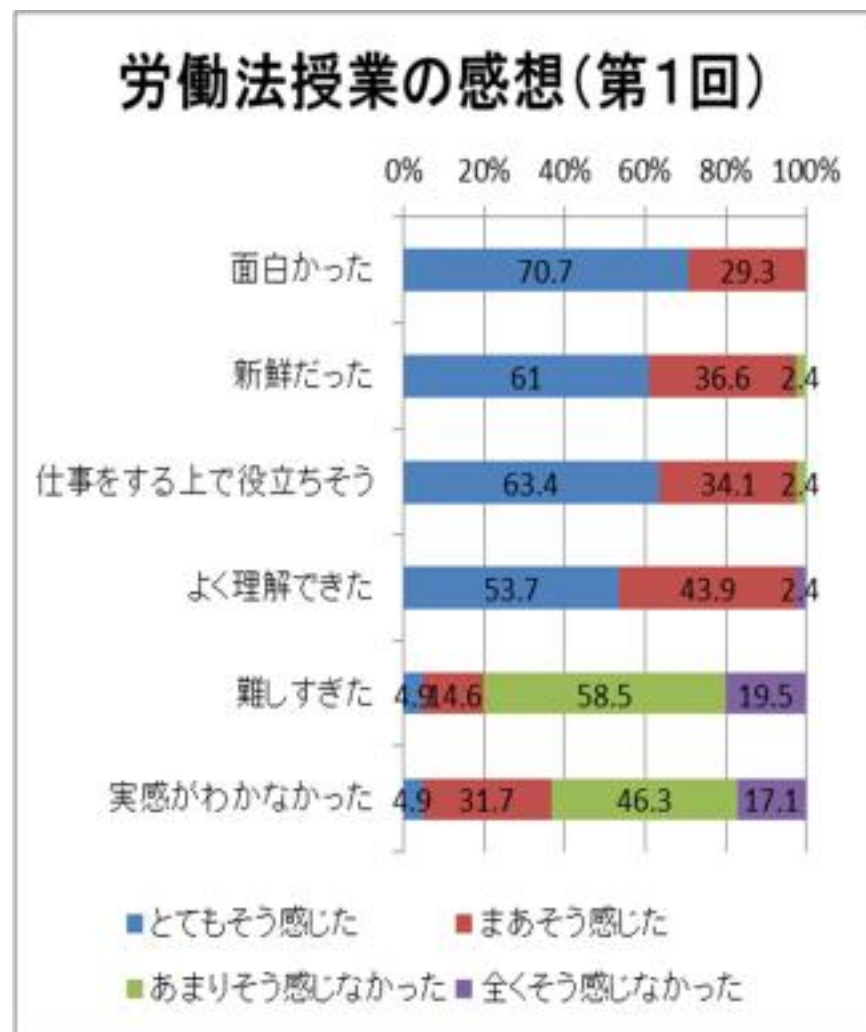
➤ 授業の感想アンケートの回答結果と自由記述

➤ 事前調査と事後調査の変化

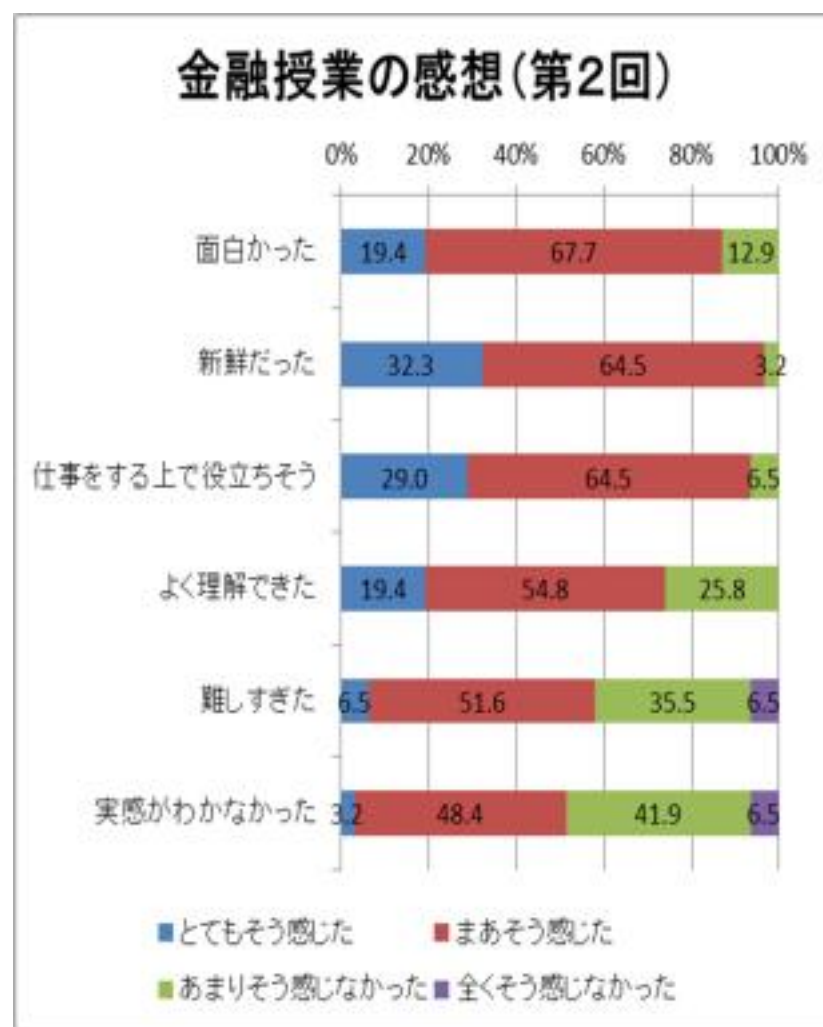
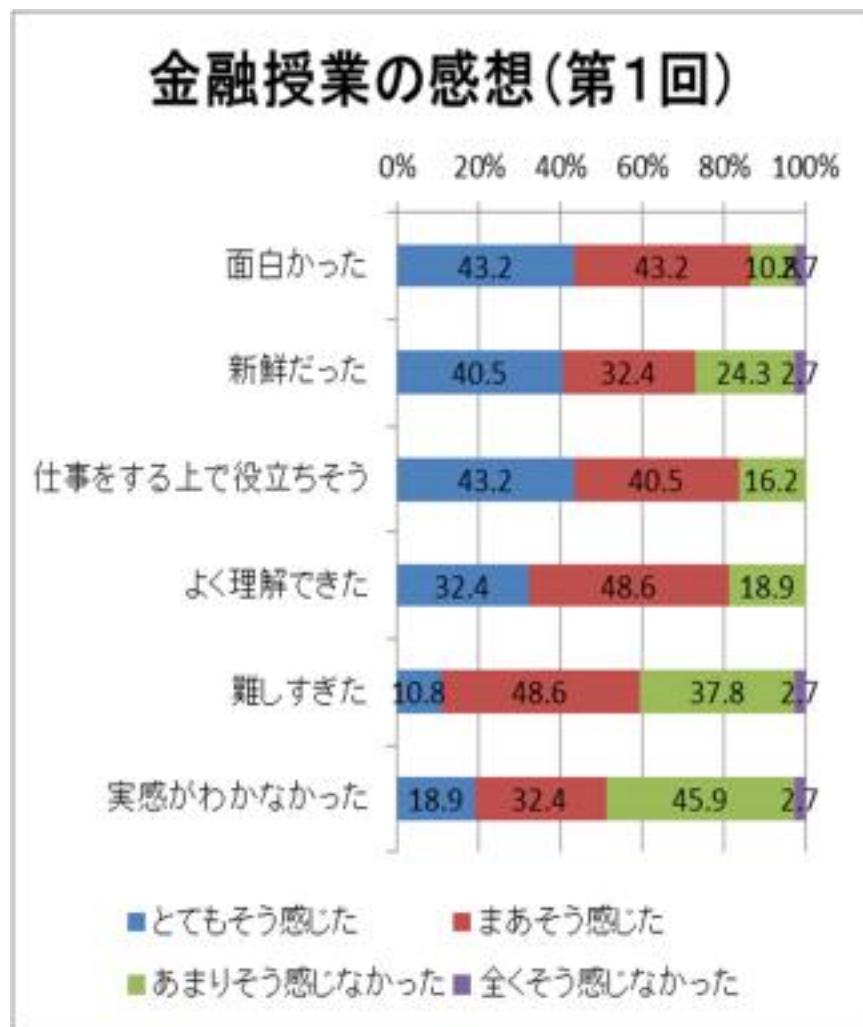
(授業の影響の持続性を検討するために、各授業の1年後・2年後にも同じ調査を実施する予定)

➤ 第1回と第2回の比較。特に金融授業は第2回で授業内容の焦点を絞る形で改訂したため、その効果を検討。

労働法授業の感想アンケート結果



金融授業の感想アンケート結果



労働法授業の感想アンケート (自由記述・抜粋)

| 労働法 | 印象に残ったこと | 改善の提案 |
|-----|--|---|
| 第1回 | 困ったことがあったら相談できる場所があるというのが分かった。1人でどうにかしようとせず周囲の人に協力してもらおうと良い。 | 一つ一つの言葉の意味の解説があると分かりやすくなると思います。 |
| | 何よりもまず相談することが大切！相談すればどうにかなる。会社は以外に違反していて労働者は不利な状況である。 | 十分おもしろかったし、かつわかりやすかったです！！ |
| | 自己都合退職というものがあることを初めて知った。サービス残業はわかりかし、しかたのないことだと思う。まあ、度が過ぎたのはよくないけど... | ビデオ解説があるとなお分かりやすくなると思います。 |
| | ・給料の切り下げ申告があった場合は、拒否することができる。・手書きのメモも有効な証拠になる。 | 教科書をもっとつかったほうがよいのでは？(教科書をメインにする) |
| | 不景気だから就職できればどこでもいいと思っていたけれど、よく吟味してから会社を選ぶべきだと思った。実際にあったことを例としてあげてあって、わかりやすかった。 | 特にないです。自由に話し合える場があってよかったと思います。 |
| | 職場で困ったら相談することが大切だとわかった。 | (いいこと)実際のニュースを見せてくれて、分かりやすかった。実際に活動している人に話を聞いてよかった。 |
| 第2回 | アルバイト・非正規社員も正社員と同じような措置をとれること。 | もう少しposseについて学びたかった。 |
| | 弁護士は、これらの「法」を武器に戦うのだなあと、感動・実感がわいた。 | さらに夢へ向かって進むやる気がわいた。 |
| | 有名な会社でも、いくつかの労働法違反があると知った。将来、自分1人だけで悩まないで、誰かに相談するようにしたいです。 | 特にありません。 |
| | 労働者って大変そう。 | 法りつを守るようにする。 |
| | 自分も将来絶対、職業につくので法律のことはとても役に立った | なし |
| | とてもいいことをきいたと思う。将来役だてたいと思う。ありがとうございました!! | 特になし |

金融授業の感想アンケート (自由記述・抜粋・第2回)

| 金融 | 印象に残ったこと | 改善の提案 |
|-----|---|--|
| 第1回 | 銀行の業務と証券会社の業務の内容が分かった。 | 楽しい授業でした。文系の人に金融に行く人が多いのはびっくりした。計算とかくるから、理数の人が多いかと思った。 |
| | 金利や投資など将来必要になるであろう情報を知ることができた。とても役に立った。今日知ったことを活用していきたい。 | インターネットやわかりやすい冊子を使ってくれたので自分たちでもわかった。 |
| | 金融のしくみ/金融は日々変化していくものだと思った/証券や金融について新しいことを聞いた | プロジェクターを長い時間見るのはつらい |
| | 金利が3ヶ月しか効かないことにおどろきました。 | あまりにもいろいろなことをつめこもうとしすぎていて、上手く伝わっているのか、理解できているのが心配。金融は、そんなに簡単なところではないから、できることなら、もっと時間をかけていろいろな話を聞きたかったです。 |
| | 金融に直接関係があるわけではないが、時々先生が口にしていた「おいしい話には裏がある」という言葉が印象に残った。 | 用語がたくさんあって、一度では理解しにくいと思う。 |
| | よくわからなかった金融についての理解を深めることができました | もう少し実感的に学べる時間があっても良いかと思いました。おもしろかったです。 |
| 第2回 | 名言が、心にグッときた。(↑投資の神様) | もっと、私たちに意見・考えなどの質問をふってほしい。 |
| | TVでよく見る経済ニュースとかは、今まで全く理解出来なかったけれど、株式、投資信託などの説明で解ることができた。DVDが分かりやすかった。 | ねむくならないように、活発な授業だったらいいと思う。 |
| | 金融は、ほんとにたくさんの人のたくさんのお金を扱っている。銀行も、すごくたくさんのお金をやらなきゃいけないから難しそう。 | よかったと思う。話し合いとかもっとできるといいと思った。 |
| | もちろんのことだが、金融において法がとてつもなくかかっていること。自分は弁護士を目指しているため、法にてらしあわせ、資本のやり取りをする「リーガルなんとか」に興味を持った。 | スライドを用いた説明で、分かりやすかった。 |
| | 金融ってばく然としててなんか…全く分かんない！むずかしい！ってイメージだったけど、なんとなく！分かった！知り合いの人が株でもうけててむずかしそうだな～っておもってたけどなんとなく、こんなことをしているんだなって身近…ではないけどすこし理解できた。 | 最初の1時間は説明をただ一方的にきくだけでねむくてたいくつだった。2時間目の方は参加しやすかった！ |
| | 投資信託の意味がわからなかったがわかるようになった。実際に社会でおこなわれている仕事をちょっとだけ体験できたのが楽しかった。 | 言葉の意味がわからないところがいくつかあった。 |

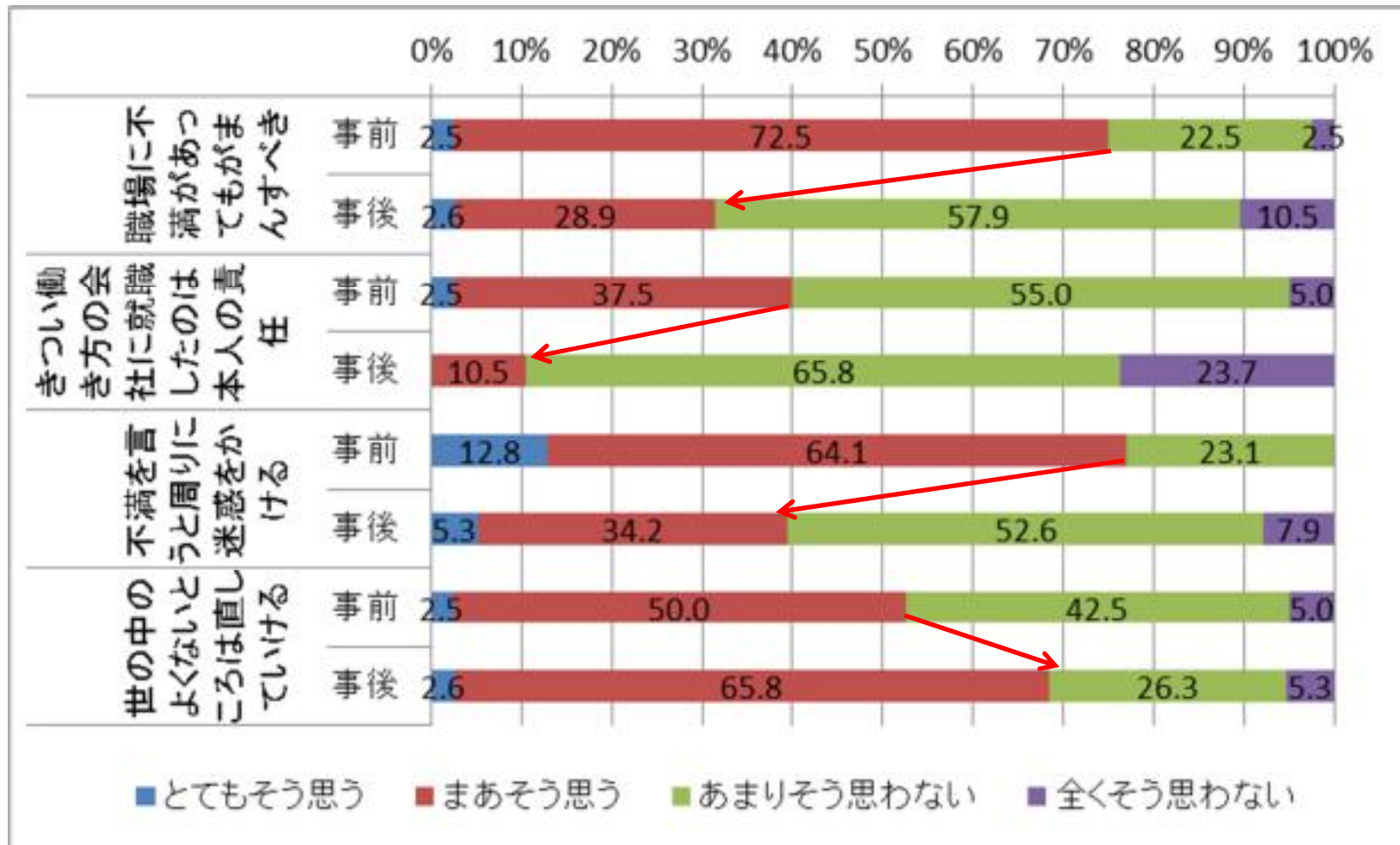
労働法授業の事前・事後比較 (知識項目)

以下の言葉の「意味を説明できる」比率

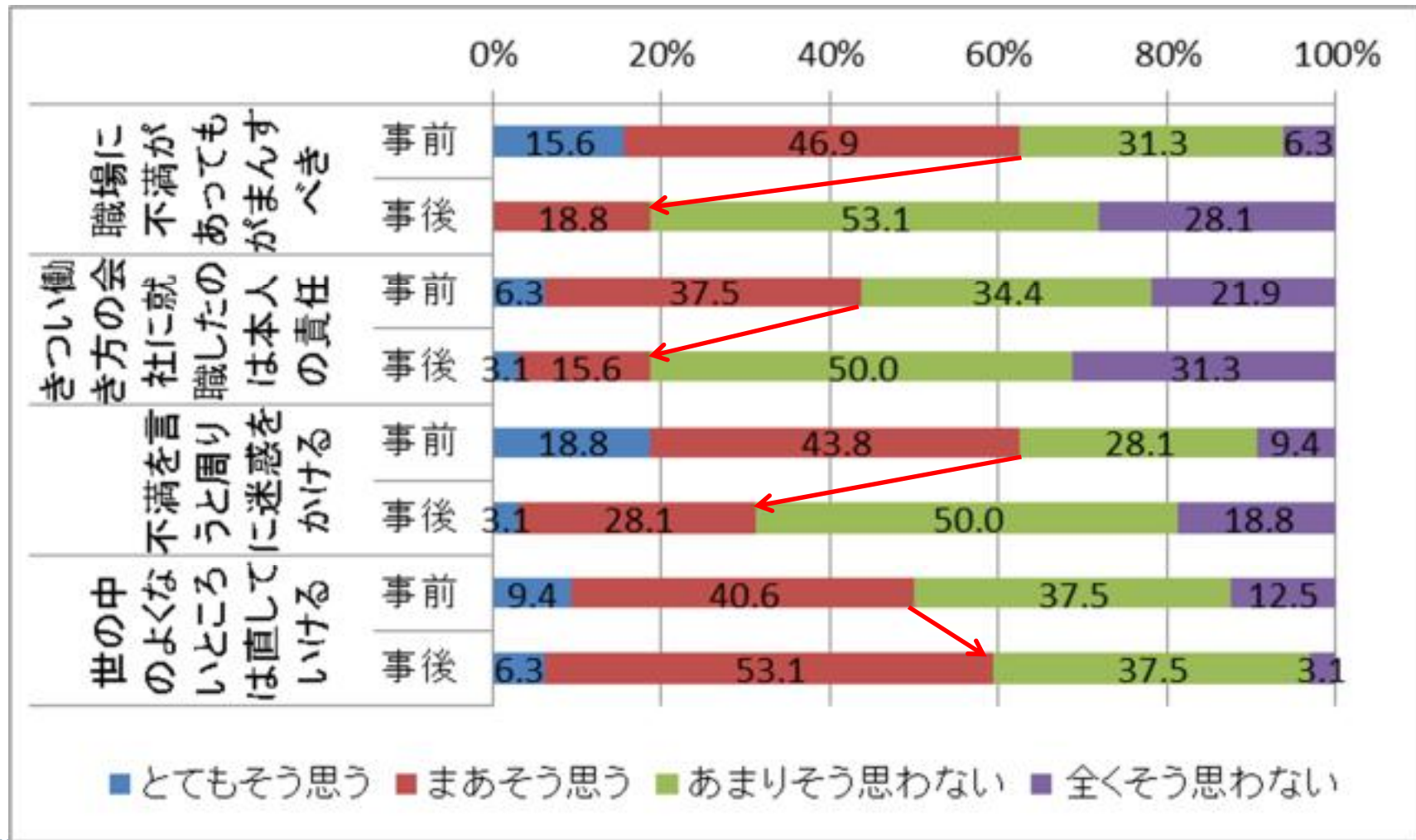
| | 第1回 | | 第2回 | |
|------------|------|------|------|------|
| | 事前 | 事後 | 事前 | 事後 |
| A.サービス残業 | 65.0 | 94.7 | 25.0 | 75.0 |
| B.過労死 | 70.0 | 94.7 | 53.1 | 84.4 |
| C.労働基準監督署 | 25.0 | 57.9 | 6.3 | 37.5 |
| D.ブラック企業 | 30.0 | 31.6 | 15.6 | 18.8 |
| E.個人加盟ユニオン | 5.0 | 65.8 | 15.6 | 46.9 |
| F.自己都合退職 | 27.5 | 78.9 | 6.3 | 56.3 |
| G.就業規則 | 10.0 | 73.7 | 6.3 | 59.4 |

※黄色部分は授業中に説明しなかった言葉

労働法授業の事前・事後比較 (第1回・意識項目一部抜粋)



労働法授業の事前・事後比較 (第2回・意識項目一部抜粋)



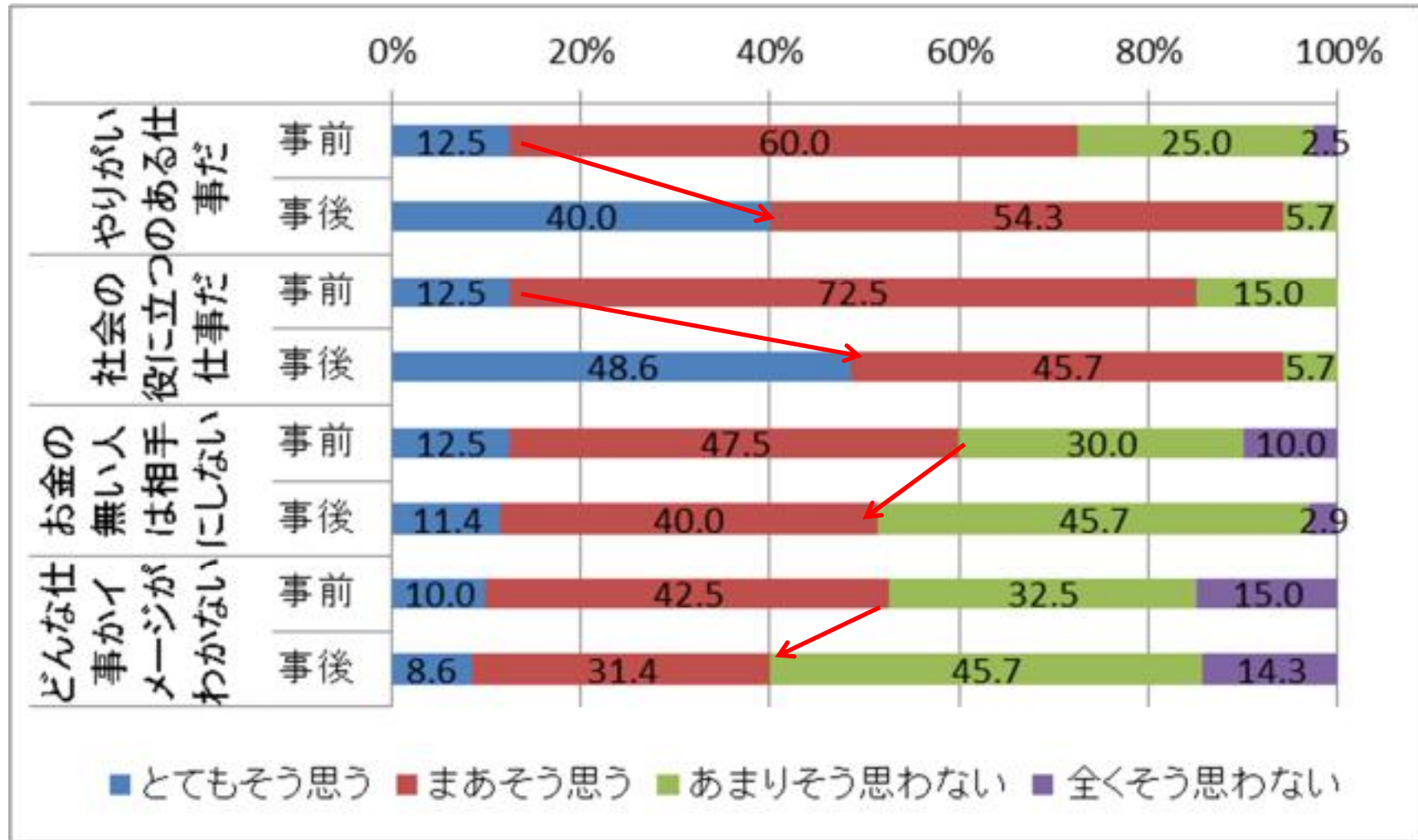
金融授業の事前・事後比較 (知識項目)

以下の言葉の「意味を説明できる」比率

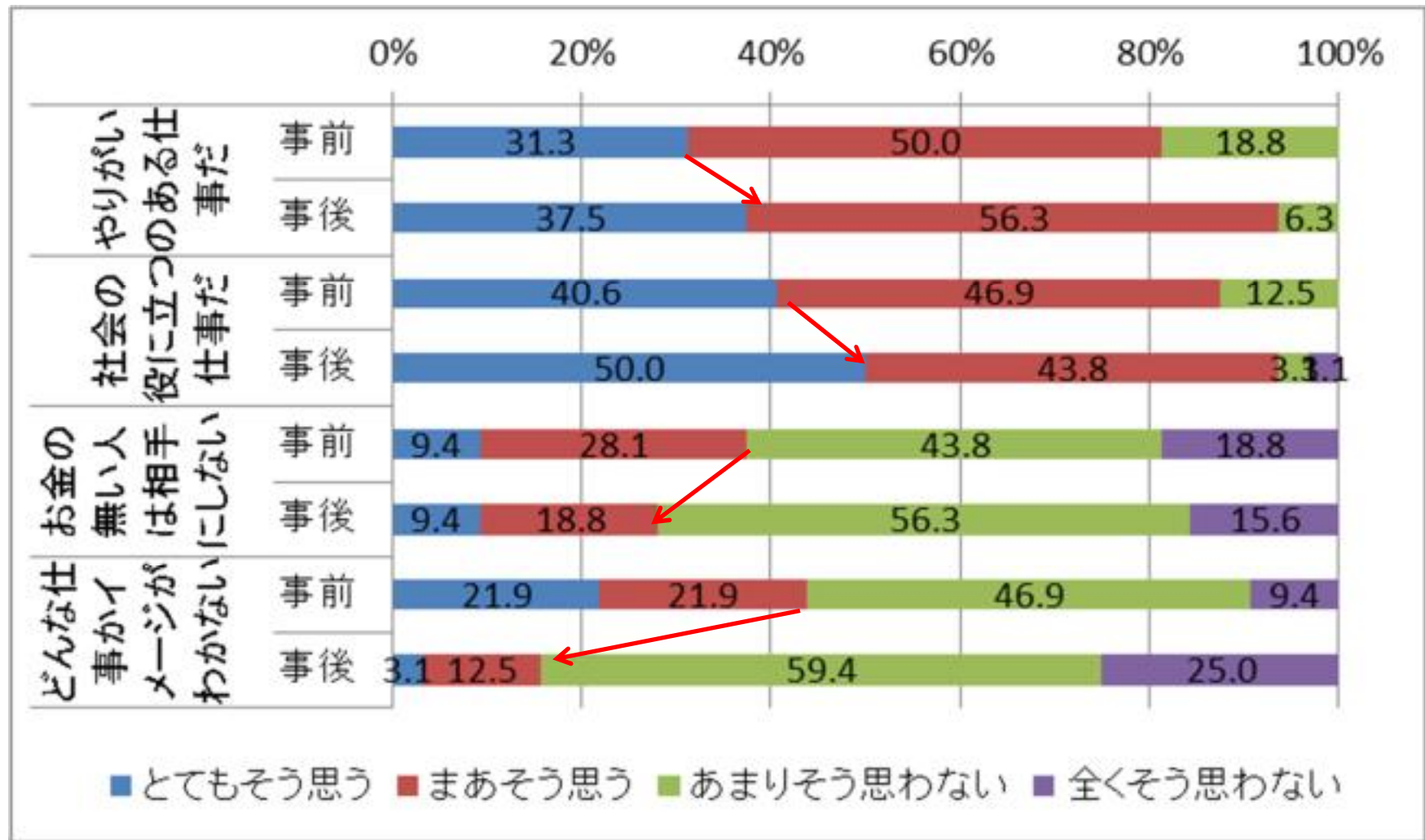
| | 第1回 | | 第2回 | |
|--------------|------|------|------|------|
| | 事前 | 事後 | 事前 | 事後 |
| A.間接金融 | 57.5 | 80.0 | 46.9 | 65.6 |
| B.直接金融 | 60.0 | 80.0 | 46.9 | 62.5 |
| C.預金 | 82.5 | 91.4 | 59.4 | 65.6 |
| D.貸出 | 65.0 | 91.4 | 59.4 | 59.4 |
| E.為替 | 65.0 | 82.9 | 40.6 | 43.8 |
| F.預金保険制度 | 20.0 | 54.3 | 6.3 | 6.3 |
| G.発行市場 | 17.5 | 45.7 | 3.1 | 12.5 |
| H.流通市場 | 20.0 | 57.1 | 6.3 | 9.4 |
| I.資本 | 57.5 | 71.4 | 31.3 | 40.6 |
| J.生命保険 | 65.0 | 68.6 | 34.4 | 31.3 |
| K.損害保険 | 52.5 | 60.0 | 25.0 | 31.3 |
| L.投資信託 | | | 6.3 | 50.0 |
| M.マイクロファイナンス | | | 12.5 | 15.6 |

※ピンク部分は第2回の授業で力点を置いて説明した言葉

金融授業の事前・事後比較 (第1回・一部抜粋)



金融授業の事前・事後比較 (第2回・一部抜粋)



現時点での知見

- ▶ 少なくとも授業直後の時点では、いずれの授業も知識・意識両面で相当のインパクトを学習者に与えている。
(特に労働法授業)
- ▶ 可能な限り参加型の授業として知識の一方的伝達を避けること、視聴覚教材・テキスト・プリント等の多様な教材をそれぞれの特性に応じて活用することが、生徒がまだ経験していない仕事の世界の現実を伝える上で有効と考えられる。

今後の課題

- ▶ 授業の影響の精査、持続性の調査と分析
- ▶ 〈適応〉の授業内容・方法の設計、金融以外の分野についても
- ▶ 教育課程にどのような形で組み込めるかについての検討、その際に外部講師と教員のいずれが担当するものとして想定するか（多様な学校現場の事情に即して適用できるように、両方の場合を想定した教育内容設計が必要）

⇒2013年度は、〈適応〉の教育の分野拡大と、ひとつの授業の中で〈適応〉と〈抵抗〉を融合させた教育について、学校教員による授業案作成と教育課程設計を進めることを予定している。